

# 日本福祉介護情報学会ニュース 2013 年度第 3 号

2014 年 2 月 10 日

発行：日本福祉介護情報学会（<http://jissi.jp>）  
埼玉県新座市北野 1-2-26  
立教大学コミュニティ福祉学部  
森本研究室内 [info@jissi.jp](mailto:info@jissi.jp)

## 【目次】

- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| 1. 第 14 回研究大会報告         | (森本)    |
| 2. 第 15 回研究大会のご案内       | (林)     |
| 3. 会員総会報告               | (森本)    |
| 3. 「研究・実践企画奨励助成制度」の選考結果 | (森本)    |
| 4. ホームページのリニューアルについて    | (村井)    |
| 5. 事務局から                | (須永、森本) |

## 1. 第 14 回研究大会報告

日本福祉介護情報学会・第 14 回研究大会 事務局  
森本 佳樹（立教大学）

日本福祉介護情報学会第 14 回研究大会は、2013 年 12 月 1 日（日）に豊島区の立教大学池袋キャンパス 14 号館において、「地域包括ケアにおける情報連携を考える ～当事者意識を高めるための情報のあり方に焦点をあてて～」をテーマに、78 名の参加者を得て開催されました。主な内容は次の通りです（以下、敬称略）。

《自由研究発表》10：15～11：45 2 会場で開催

### ◆ A 会場（14 号館 D302 教室）

- ①情報連携及び情報提供が在宅化推進に与える影響に関する一考察：  
長倉真寿美（立教大学）
- ②社会福祉実習の定量的把握 ―テキストマイニングを活用した高齢福祉分野実習の記録解析から―：  
大原ゆい（京都府立大学）
- ③Web サイトにおける福祉サービス第三者評価結果の活用方法とその課題について  
～福祉サービス第三者評価における活用実態調査からの一考察～：  
村田道彦（東北文化学園大学）

### ◆ B 会場（14 号館 D402 教室）

- ①医療・介護分野における ICT 利活用先進国との比較によるイノベーション考察：  
田井義人（摂南大学）
- ②音声つぶやきによる介護サービス可視化と情報共有：  
平林裕治（北陸先端科学技術大学院大学）
- ③携帯電話を活用した地域見守りネットワーク形成手法とその効果に関する研究：  
内田斉（アイデア・フロント株式会社）

《基調報告》13:30～14:00 14号館D401 教室

地域包括ケアにおける情報連携を考える ～当事者意識を高めるための情報のあり方に焦点をあてて～ (シンポジウムにあたって)

森本佳樹 (日本福祉介護情報学会副代表理事、立教大学)

《シンポジウム》14:10～17:00

テーマ「地域包括ケアにおける情報連携を考える ～当事者意識を高めるための情報のあり方に焦点をあてて～」

①「ふるさとの会」の実践からみる当事者ニーズの発信方策

滝脇憲 (NPO 法人 自立支援センターふるさとの会理事)

②地域包括ケアにおける利用者情報の把握と共有

山崎孝博 (株式会社NTTデータ・会員)

③だれもが生き生きと暮らしやすい地域に

早川郁子 (立川市社会福祉協議会)

④ソーシャルキャピタルのネットワーク化と情報共有の視点

山村良一 (横浜市の中村地域ケアプラザ)

⑤武蔵野市の地域包括ケアシステム推進へ向けた住民・地域社会との連携

笹井肇 (武蔵野市役所)

(コメンテーター)

林恭裕 (北翔大学・学会理事)

(コーディネーター)

高橋紘士氏 (国際医療福祉大学・学会代表理事)

今年度のテーマは、昨年・一昨年と続けた東日本大震災をテーマとしたシンポジウムをさらに展開させる意図を含みながら、団塊の世代が後期高齢期を迎える2025年の高齢者介護の体制整備に向けて国が進めている「地域包括ケア」、とりわけ、その中でインフォーマル・サポートの役割を、福祉・介護情報の視点からどのように考えるかをとりあげ、上記5名のシンポジストにそれぞれの活動について、テーマに即して発題をいただきました。

地域包括ケアに関しては、多職種連携や組織間ネットワークの必要性が謳われ、そのためのツールである地域連携パスやそれをサポートする情報システムの開発も手掛けられています。しかし、その基盤となる一人ひとりの生活基盤を踏まえた上での友人・知人や地域住民によるサポートは、その重要性は謳われるものの、具体的な組織化の取り組みや、専門職ネットワークとの連動はまだ未成熟であると言えます。

そうした現況を踏まえ、シンポジウムでは先進的な取り組みを行っている各地の実践者からのレポートに基づき、その重要性や方向性について議論が行われました。詳しくは、学会研究紀要第11号に掲載される予定ですので、ご期待ください。

大会開催には至らぬ点多々あり、参加者の皆様にはご迷惑をおかけしたこともあったかと思えます。紙上で改めてお詫びするとともに、ご尽力いただいた発表者・参加者・事務局関係者各位に厚くお礼申し上げます。

## 2. 第15回研究大会のご案内

日本福祉介護情報学会理事・第15回研究大会 事務局

林 恭裕 (北翔大学)

2014年度の第15回研究大会は、2014年9月21日(日)に札幌で開催することにな

りました。会場は札幌駅北口近くの藤女子大学北16条キャンパスの予定です。詳細な企画はこれからですが、多くの方の参加が得られるよう時宜を得た内容にしたいと考えています。詳細が決まり次第お知らせします。

### 3. 会員総会報告

日本福祉介護情報学会理事・事務局長  
森本 佳樹 (立教大学)

2013年12月1日(日)の日本福祉介護情報学会第14回研究大会において会員総会が開催され、以下の議案について協議し、承認されたので報告します。

#### 《報告事項》

- (1) 学会の運営について
- (2) 会員加入状況 (2013年12月1日現在)  
個人会員 113名 学生会員 20名 名誉会員 1名
- (3) 研究紀要『福祉情報研究8・9号』について
- (4) 「東日本大震災にともなう学会プロジェクト」について
- (5) 「研究・実践企画奨励助成」審査結果報告

#### 《審議事項》

- (1) 2012年度事業報告・決算
- (2) 2013年度事業計画(案)・予算(案)

#### 《その他》

- (1) 2014年度研究大会の開催について
- (2) 研究紀要『福祉情報研究10号』『福祉情報研究11号』について
- (3) 住所等変更届の提出のお願い

### 4. 「研究・実践企画奨励助成制度」の選考結果

日本福祉介護情報学会理事・事務局長  
森本 佳樹 (立教大学)

今年度から新たに開始した第1回「研究・実践企画奨励助成」は、11月30日(土)に開かれた選考委員会において、以下の研究・実践企画が採択されたので報告します。

《テーマ》介護サービス提供機関における情報関連業務の実態把握に関する 研究

《申請者》大冢賀 政昭 (国立保健医療科学院)

《期間》2013年12月15日～2014年9月15日

《助成額》10万円

《備考》申請者は、2014年9月15日までに「研究・実践企画成果報告書」を提出し、第15回研究大会自由研究発表において報告していただきます。

### 5. ホームページのリニューアルについて

日本福祉介護情報学会理事  
村井 祐一 (田園調布学園大学)

リニューアル後のホームページ運営についてお知らせいたします。現状では、準備中のページが多数あり、それぞれについて掲載内容の準備を行っております。また、年度内には会員専用ページ開設の準備を終え、会員専用サービスを開始する予定です。会員ページについては下記のコンテンツ掲載を検討しております。

論文	バックナンバー
	学会誌への感想
	学会誌へのアンケート
学会資料	○年度研究大会
理事会・委員会開催状況	理事会議事録
	委員会議事録
福祉情報アーカイブ	—
登録情報の変更	登録変更届
退会方法	退会届

今後とも本学会ホームページ運営へのご協力をお願い申し上げます。

## 6. 事務局から

日本福祉介護情報学会理事・事務局  
須永 誠（東京都社会福祉協議会）

### (1) 未納学会費納入方ご依頼

ニューズレター本号に同封して、本学会 2013 年度会費を納入されていない会員には、再度の「学会費納入依頼文」を同封しております。学会費の納入漏れの無きようご協力をお願いします。

### (2) 連絡先をご存知ありませんか？

昨年末、学会研究誌「福祉情報研究」を、学会大会にお出でにならなかった会員にお送りしましたが、岡山県・菅野博子様 と 京都府・関口洋明様の 2 名宛て郵便が「あて先に訊ねあたりません」と戻ってきました。問い合わせのメールも不通となっております。連絡できない状態になっています。動静をご存知の方がおられましたらお知らせください。

### (3) 会員加入状況（2013 年 12 月 1 日現在）

個人会員 113 名 学生会員 20 名 名誉会員 1 名

~~~~~      ~~~~~      ~~~~~      ~~~~~

### (編集後記)

本年度第 3 号をお届けします。12 月 1 日に開かれた第 14 回研究大会は、皆様のご協力を得て、盛会裏に終了することができました。厚くお礼申し上げます。また大会に間に合うように研究誌『福祉情報研究 8・9 合併号』も上梓することができました。とは言え、学会活動の立て直しは始まったばかりです。遅れている研究誌 10 号の発行、ホームページのリニューアル、「東日本大震災に関する学会プロジェクト」報告書などにも暫時取り組みたいと考えていますので、会員の皆様の積極的なご協力・ご参加をお願いしたいと思います。（文責 森本）